

Uyemura, T. — On two spiders from Palau Island.

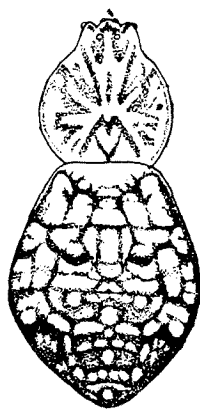
## パラオ島の蜘蛛二種に就いて

植 村 利 夫

東京市澁野川区西ヶ原町310

[昭和11年9月20日受領]

予は最近理學士高橋敬三氏より、同氏が本年6月パラオ島で採集した蜘蛛二種を同定するの機会を恵まれたので、此所に簡単に其の結果を發表して、謹しんで感謝の辭に代へる。



アミメコガネグモ

(K. Shirao del.)

二種の蜘蛛は何れもコガネグモ科 (Argiopidae) に屬するもので、次の如く同定した。

### 1. *Argiope reticulata* Kishida 1919 アミメコガネグモ

本種に就ては本誌第一號の岸田久吉氏「日本帝國產のコガネグモ屬諸種に就て」を御覽になれば、其の特徴・細分式の學名及原記載の出所等を知る事が出来る。標本個體數は2(何れも♀)で一方のみ成熟してゐた。測定及色彩等は前記岸田氏の記述(P.27)と大同小異であるから特に改めて記すべき必要を認めない。只此所には高橋理學士より聞いたアミメコガネグモには恐るべき強敵あることを御紹介申上て置きたい。

Toxotes とアミメコガネグモ

強敵とは彼の有名な Toxotes (水玉魚) である。パラオ島の海岸には約 150—200m 位

の海中に彼の所謂マングローブ（紅樹林）が繁茂して居るとの事で、其の樹枝を利用して造網生活を営んで居るのが此のアミメコガネグモ、其の樹根の播延起伏する間に游泳生活を営んで居るのが彼の *Toxotes* である。*Toxotes* が水を吹上げて陸上の生物を射落し、それを食する事は有名なものであるが、高橋氏の話では其の水を吹き上げる高さは約 4m. 位にも及ぶとの事である。

而して此所に面白き事實は此の *Toxotes* がこのアミメコガネグモを最も好んで食するとの事である。即ち紅樹林の間に天下泰平と背水の陣を張つて空中ばかり睨んでゐる此の蜘蛛が、豈圖らんや水中から水鉄砲で一發のもとに射落されて、無惨やガブリと一息のもとに *Toxotes* の胃中へさして羅りこすのであると云ふ。「ヒヨドリゴエノサカオトシ」よりもまだまだ危険、アナ油斷大敵！

因に *Toxotes* が水鉄砲で射落して食する動物は此の蜘蛛の他に コホロギ・バツタ・カニ等であるが、解剖してみると此の蜘蛛の個體数は極めて多く、*Toxotes* を實驗室で飼育するにも此の蜘蛛さへ與へておけば、元氣がよくて死ぬることがないとの事である。

*Toxotes* とアミコガネグモ、何方様にも初耳の興味あることだと思つて早速こゝに受賣した次第である。

## 2. *Leucauge* sp.

シログネグモ属 一種

標本は多數あつたが遺憾乍ら何れも亞成體ばかりで種名の確定までには至らなかつた。念のため曾てパラオ島の蜘蛛をお調べになつた事のある岸田久吉氏にも一寸見ていただいたが、同氏もパラオ島からは初見の蜘蛛で、或はアフリカ地方から知られてゐる種類かも知れないとの事であつたが、結局今の所まだ種名を確定する事が出来ない様な次第である。色彩は内地のシログネグモの如く銀綠色ではなく褐黄色に近い。

所が高橋氏のお話では此の蜘蛛は向ふでは家の中に侵入して來て書棚の間等へ澤山糸を張り廻して困るさうで、これはコガネグモ属の種類としては蓋ろ不思議な習性である。御承知の如く内地のシログネグモは決して屋内へは侵入して來ないし、又書棚の間等に張る様な小さな網を造るものではない。此の點不可解と云ふべきであるが、採集者の言として此所に認めたまでである。

何れ暇をみて精密な調査をなし、亞成體乍らも種名が判明したならば、又改めて詳報する事にする。先は報告やら受賣やら要領知れない駄文を草したまでとして置く。

（昭和11年9月20日稿）